

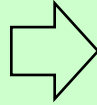
ばれいしょ、黒大豆の生産拡大で6次産業化を拡充し収益力を向上 ～後藤 進氏〔真狩村〕～

経営体の概要

事業実施前：平成17年

基幹作物：ばれいしょ、小豆、てんさい、
スイートコーン、かぼちゃ

経営面積：17.0ha



事業実施後：令和3年

基幹作物：小麦、ばれいしょ、黒大豆、小豆、てんさい、
スイートコーン、かぼちゃ、いちご

経営面積：28.0ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

本事業により、ほぼ8haの1枚区画となり土壌条件が均一化されるとともに、経営規模を拡大したことで1作物を1団地に集約した。併せて自動操舵装置の導入等により作業効率が向上した。これら農作業の効率化に伴い、ばれいしょの作付拡大と黒大豆を新規導入した輪作体系を確立し、従来から取り組んでいたばれいしょの直販やポテトチップスなどの加工販売に加えて、黒大豆の加工に取り組み、6次産業化を拡充し収益力の向上を実現した。

営農改善のポイント

①6次産業化

10年前から、「ごとうさん家のポテトチップス」をばれいしょ収穫後の期間限定として「道の駅」等で販売している。また、新たに導入した黒大豆の加工にも取り組み、「きな粉豆」「甘納豆」「素煎り」の加工品（個人ブランド）も販売している。



6次産業化（ポテトチップスなど）

②栽培技術の確立・向上

緑肥を含めた4年輪作の確立と堆肥の投入により、全作物で農薬や化学肥料の使用を減らす栽培をしている。ばれいしょは加工や直販の用途に応じて6品種を栽培している。てんさいは、省力化のため一部直播栽培に移行したが、ほ場条件改善、直播栽培技術の確立、新品種の採用等で、従前同様の収量を確保している。



黒大豆・ばれいしょ

③省力化

小麦、大豆の収穫を委託作業で対応し、ばれいしょ等に労働力を集中して投入している。大区画化・傾斜の均一化によるほ場条件の改善に加え、トラクターに自動操舵装置を導入したことにより、作業時間が軽減した。てんさいは一部直播栽培に移行したことで育苗管理及び移植作業の軽減が図られた。



ばれいしょ収穫

事業概要

事業種：国営農地再編整備事業

関係市町：北海道虻田郡真狩村

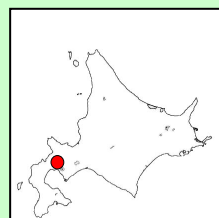
受益面積：1,028ha

事業期間：平成19年度～平成27年度

事業目的：区画整理・農地造成

主要工事：区画整理987ha、農地造成5ha、
道路4.8km

位置図（北海道）



真狩地区

<問い合わせ先>

北海道開発局 農業水産部

農業計画課 計画第1係

電話：011-709-2311

（内線5522）

（令和3年度調査時点）